



学校だより

入善町立飯野小学校

令和4年12月2日

「大人の私たちが子供にできること」

教頭 齊藤 康

いよいよ師走になり、あちらこちらで冬支度が始まっているようです。私は、タイヤ交換をしたりストーブを準備したりする合間に、時折、図書館で本を借り、読書をしています。読んだ本の中で、名古屋大学大学院教授 速水敏彦氏の「他人を見下す若者たち」は子供の関わりに対して考えさせられる書籍でした。概要は以下の通りです。

【気になる現状】

人に対して簡単に「消えろ」や「死ね」等と言う。また、自分の失敗を素直に認められない。道を譲れない等、他の人への配慮に欠ける。自分の中でのルールが優先。このような人をバカにした言動をとるのはなぜか。

【仮説】

「過去の実績や経験に基づくことなく、他者の能力を低く見積もることに伴って生じる本物でない有能感」が強固になっているのではないか。「人をバカにした態度や行動をとることによって『自分は有能だ』という仮想的有能感が強化される。このような繰り返しの中で、仮想的有能感が一層強固なものになっていく」

【主張】

『仮想的有能感』が蔓延する未来社会がよいはずはない。われわれはこのような現実を把握して、足を引っ張り合うだけで協同できない社会がいかに効率が悪く、生産性に乏しいか、そして何よりもいかに心理的に潤いがなく、心理的に疲労するかをよく考えるべきである。」

そして著者が対策として挙げたことが3点ありました。「①しつけの回復」「②自尊感情を強化する人のためになる経験」「③感情を交流できる場」だそうです。子育ての参考になればと思い紹介させていただきました。コロナ禍の中で、以前のような子供との関わり方が難しいものもありますが、今からでも遅くはないそうです。子供たちの未来のために、できることを私たち大人が取り組んでいきたいと思いますか。

ほっとタイム



*先生方の、ほっとできるようなエピソードや一言を紹介します。

「偶然の再開」

林 香織

「林先生ですか？」電車で向かい側の席から聞こえた声。大人っぽい雰囲気です。気付きましたが、名前を聞くと2年前に卒業させた子供たちでした。偶然の再会にとっても驚きました。コロナ禍ということもあり、これまでなかなか卒業生たちと話す機会がありませんでした。そのため、卒業してからの子供たちの様子をいろいろ聞くことができ、とてもよい時間になりました。偶然に感謝です。またみんなに会えるのが楽しみだなあ…。

「昔はよかったなあ」

木澤 慎

ここ数年、だんだんと目覚めが異常に早くなり紙をめくるのも苦勞するようになりました。

昔、若いころに大先輩諸氏が、夜中にトイレに起きるとか、指をなめながら仕事をしているのを見聞きして何をやってんだろうと思っていました。

みんなそうなるんだなあ

若いころはよかったなあ

小学生はいいよなあ



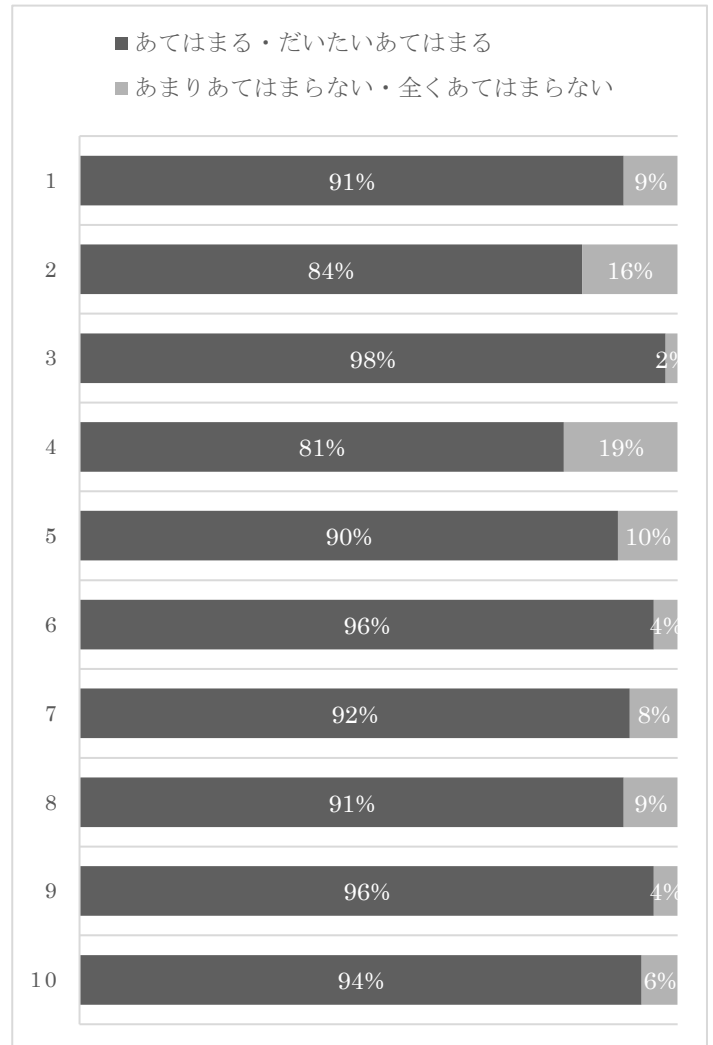
【学校評価アンケート結果】

学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。その結果をまとめましたのでお知らせいたします。

- 回答期間 10月17日～11月25日 ○ 回答方法 QRコードもしくはURL
○ 回答率 162人中120人 74.07% （まだ回答を受け付けています。）

◎学校教育に関するアンケート

1. 子供には、あいさつの習慣が身に付いてきている。
2. 子供には、望ましい生活習慣が身に付いてきている。
（早寝・早起き、朝食、歯磨き、身の回りの整理整頓等）
3. 子供には、思いやりや自他の生命を大切にする心が育ってきている。
4. 子供には、家庭学習の習慣が定着している。
5. 子供は、学校が楽しいと言っている。
6. 学校は、学習しやすい環境づくりに努めている。（フロアーや教室環境、掲示板等の活用、展示・掲示物等）
7. 学校は、分かりやすい授業、学力向上に努めている。
8. 学校は、一人一人を大切にし、適正に対処、指導している。（事故・病気の際の対応、問題発生時の対応、友達関係づくり等）
9. 学校は、家庭や地域に情報を発信している。（「飯野小学校の教育」、学校・学年だよりホームページ、情報メール等）
10. 学校は、家庭との連携を適切に行っている。（行事、連絡帳、電話、懇談会等）
11. 保護者が学校に期待すること（複数回答可）



項目	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
学年									
全体	35%	26%	61%	36%	51%	34%	20%	71%	9%

ア：基本的な生活習慣の定着
エ：健康・体力づくり
キ：勤労・奉仕的な活動

イ：学力の向上
オ：分かる授業の実践
ク：楽しい学校生活

ウ：心の教育の推進
カ：異文化や自然などの体験活動
ケ：開かれた学校づくり

◎ 考察

今年度の「学校教育に関するアンケート」の結果は、昨年度の結果と同様に質問3「思いやりや自他の生命を大切にする心が育っている」や質問6「学校は、学習しやすい環境づくりに努めている」、質問9「学校は、家庭や地域に情報を発信している」等が高い評価となりました。また、昨年度が78%のやや低い評価であった質問2「子供には、望ましい生活習慣が身に付いてきている」が84%に高まっています。これは家庭において、早寝や早起き等の生活習慣の定着に粘り強く取り組まれているからだと考えます。学校においても「とやまゲンキッズ作戦」や「歯がピカッと週間」、「自主学习ノートの進め方」等を通して子供たちへ引き続き働きかけます。そして、質問11「保護者が学校に期待すること」では、多くの保護者が学校にク「楽しい学校生活」とウ「心の教育の推進」を期待されています。この結果を言い換えると「保護者の多くは、子供が学校で他の子供と楽しく仲良く過ごす姿を期待している」と考えます。学校では、同学年同士だけでなく異学年の子供たちが互いを思いやって関われる場や子供が活躍できる場を設定していこうと考えます。皆様に答えていただいたアンケート結果を参考に、今後の学校運営を見直し、実践に取り組めます。

自由記述につきましても、内容を吟味して検討していきます。貴重なご意見をありがとうございました。